

(財)日本ユニセフ協会佐賀県支部通信 第19号 2008年11月

事務所：佐賀市水ヶ江4丁目2-2 TEL&FAX 0952-28-2077

e-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

URL <http://www.2.odn.jp/unicef-saga/>

支部通信はホームページでもご覧いただけます



すごろく:いのちをまもる水

早いものですね。佐賀平野を彩るバルーンの季節も過ぎ、今年も余すところあと1ヶ月となりました。背中を押される気分になる季節ですが、お元気でお過ごしでしょうか。

この秋は巡回写真展、出前授業の数々などたくさんお声をかけていただき実り多い日々感謝しております。

11月、12月はハンドインハンド月間です。みなさまの温かいお気持ちを少しでも多くユニセフの支援を待っている子ども達にお届けしたく街頭募金もいろいろ計画しております。皆様のご協力をお待ちしております。詳しくは別チラシをご覧ください。

世界の子どもたちは、今



©UNICEF DR Congo/2008/Harneis

コンゴ民主共和国東部で起こっている武力衝突によって避難を余儀なくされた子どもたちは、武装勢力による暴力、搾取によって、非常に厳しい状態にある。

< コンゴ民主共和国 >

～ 武装勢力に徴用される子どもたち～

【2008年11月14日 ニューヨーク発】



1. 面積
234.5万平方km
2. 人口
6,240万人
(2007年)
3. 首都
キンシャサ
(外務省HPより)

ユニセフ・ゴマ事務所によると、コンゴ民主共和国東部北キブ州で続いている武力衝突によって、子どもたちは武装勢力による虐待や搾取の危険に晒されていると報告しています。

この地域全体で、子どもたちが武装勢力によって強制的に徴用されたという報告が増えており、避難民の子どもたちは、特に、その犠牲になる危険性が高くなっています。

14日、ゴマからわずか数キロしか離れていないところで、政府軍と反政府組織の間の銃撃が再び勃発しました。市郊外の避難キャンプに避難している何万人の人々にとっては、緊迫した状況が続いています。

ユニセフとパートナー機関は、1万3,000人の子どもたちを対象にしたはしかとポリオの予防接種、飲料水の輸送、最低限必要なものを揃えたサバイバル・キットの提供などを進めています。このキットには、毛布、ビニール・シート、蚊帳などが含まれています。

より困難な状況に

ユニセフ・ゴマ事務所のジャヤ・ムルシー広報官によると、この武力衝突の影響で、支援物資の配布を続けることが困難になりつつあるとのこと。武装勢力の侵攻は、この州の他の地域でも、人々を避難せざるを得ない状況に追いやっています。

「この4日間、カンヤバヨングは不安定な状況が続いていますが、その主な原因は、国軍による略奪が起きているためです。」ムルシー広報官はこのように話し、次のように続けました。

「カンヤバヨングでは反政府組織の侵攻が進み、少なくとも3万5,000人が、さらに北部へと移動せざるを得なくなっているという報告を受けています。」

現在、ユニセフが最も懸念している問題のひとつが、男性や男の子たちの武力勢力への徴用です。「キチャンガ近辺では、未確認情報ながら、500人がこの数日間のうちに徴用されたと伝えられています」と、ムルシー広報官。「武装勢力が、避難民を積極的に徴用し、軍の勢力を強めようとしているとの情報を得ています。」徴用された人々は、14歳から40歳までにわたると報告されています。



離れ離れの家族

子どもたちは、避難生活が長引けば長引くほど、保護されない環境に晒される危険性が高まります。「避難民たちは非常に厳しい状態にあることが分かります。自分たちの家を離れなければならないのですから、コミュニティの保護もありませんし、学校という保護された環境もありません。それに屋外で生活していますし。」(ムルシー広報官)

ユニセフとパートナー機関は、逃げる途中で、両親や家族と離れ離れになってしまった子どもたちが増えていることも懸念しています。

子どもたちは、逃げる途中で、家族と離れ離れになっています。そうした子どもたちは、略奪、徴用、レイプ、搾取の被害にあう可能性があり、さらに厳しい立場に立たされ

られています。ユニセフは、親や家族と離れ離れになってしまった子どもたちを保護し、親類を探し出して再会させる活動を行っています。今までに、すくなくとも152名が保護され、そのうち17名が家族との再会を果たしています。1996年から始まったコンゴ民主共和国内の武力衝突によって、命を落とした人の数は500万人以上になると考えられています。そのほとんどが、予防可能な病気や栄養不良によるものと見られています。コンゴ民主共和国でのユニセフの活動は、世界で活動しているユニセフの活動の中でも規模の大きいもののひとつです。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

© UNICEF DR Congo/2008/Harneis

ユニセフは、北キブ州での武力衝突で避難している家族に、毛布、ビニール・シート、蚊帳などを含んだ緊急のサバイバル・キットを提供している。



活動報告



10月8日(水)出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
神崎市立仁比山小学校

テーマ : 水から世界を考えよう

神崎市子どもの居場所づくり実行委員会では、国の委託を受けて 神崎市内の7小学校や公民館で、放課後や週末にいろいろな体験活動、世代間交流ができる居場所づくりを進めています。



仁比山小学校ドリームパークの子どもたちは(1年~5年)は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。「みず・水・クイズ」で水が限られた資源であることを知ったり、すごろくゲーム「いのちを守る水」で井戸ができるまでを追体験したりしました。また、世界の子どもたちがどのようにして水を手に入れているかを画像で見た後、ネパールの水がめを使っての水運び体験をしました。

学習を終えて

すごろくをして、井戸ができたならみんながとても喜ぶということが分かった。ぼくも井戸にゴールできたからよかった。

水運びは重くてきつかった。1日に何回も水を運ぶために学校に行けない子どもたちがいる。

私は水運びをしなくてもいいから、いっぱい勉強しようと思った。

ぼくは水を使いすぎているから、今度から少し使うようにしようと思う。



10月15日(水) 佐賀清和中学校募金贈呈式

佐賀県支部事務所

佐賀清和中学校では9月9日~9月11日に清和祭が行われ、そのなか9月10日にはユニセフ実行委員会の皆様を中心となってユニセフチャリティーバザーが開催されました。

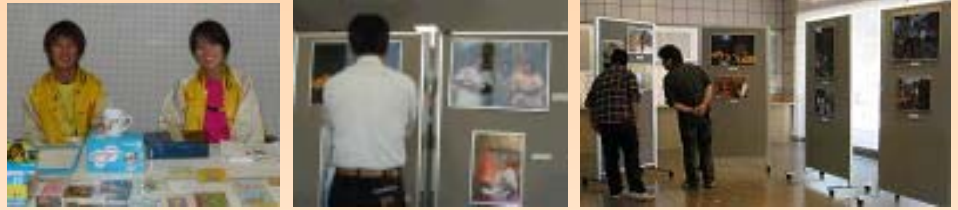
本日はユニセフ実行委員会を代表して委員長、副委員長のお二人が先生と一緒に、ユニセフチャリティーバザーで皆様からご協力いただいた募金 56,455 円を届けに来ていただきました。





10月10日(金)～10月22日(水) ユニセフ写真展

佐賀巡回展「HIV/エイズの危機と子どもたち」



ユニセフ写真展「HIV/エイズの危機と子どもたち」を開催しました。

より多くの皆さまに見ていただけるように、今回は下記の3会場を巡回する写真展としました。

佐賀大学医学部キャンパスむつごろう祭 10月10日～12日

iスクエアさが市民活動プラザ 10月14日～10月17日

アバンセ佐賀県立女性センター・生涯学習センター 10月18日～10月22日

*期間中に「アバンセ・フェスタ」も開催され、多くの皆さまにご覧いただきました。

アンケートによると「ユニセフの写真展を初めて見た。」と答えてくださった方が多くて、巡回展という新たな試みも意義がありました。

アンケートより

子どもがエイズになることを知らなかったし、エイズが原因で親を失って孤児になることも知りませんでした。私の知らない世界を気付かせてもらってよかったです。

アフリカ等でのエイズの現状が悪いことは知っていましたが、これほどとは思いませんでした。知ることの大切さが身にしみ、これをどのように子どもたちに伝えていこうかと考えています。性感染症の中でも HIV ウイルスのことは特に取り上げて指導していかななくてはならないと思いました。正しい知識を子どもたちに伝えなければなりません。

募金箱を見るたびに僅かだが入れていた。また、振込み用紙での募金もしてきた。しかし、写真を見て、性を大切にしたいと感じる。そして、人として生きることができるのはみな同じだと思った。



10月29日(水)出前授業 神崎市放課後子ども教室ドリームパーク
水から世界を考えよう 神崎市立千代田西部小学校
千代田西部小学校ドリームパークの子どもたち44人(1年～5年)
は、「水から世界を考えよう」というテーマで学習しました。

学習を終えて

日本には水がいっぱいあるけど、世界には水がなくて困っている人たちがたくさんいることがわかった。

海の水はたくさんあるけど、地下水や川の水はちょっとしかないことがわかった。ぼくは、水を少なく使うようにする。

井戸ができればアフリカの子どもたちがとても喜んでいて、井戸ができることはとてもうれしいことだと思った。

11月1日(土)～3日(月) ユニセフグッズ頒布 有田うーたん通り秋の陶器まつり 緑のテラス清水
有田うーたん通り秋の陶器祭り「緑のテラス清水」では、毎年ユニセフグッズの頒布に取り組んでおられます。今年もすてきなユニセフグッズをお求めになるお客様がおいでになりました。

11月2日(日) ユニセフグッズ頒布 日本バプテスト連盟佐賀教会
日本バプテスト連盟佐賀教会では1993年の佐賀友の会(佐賀県支部の前身)以来16年間にもわたってユニセフカード・グッズの頒布にご協力をいただいています。ユニセフのクリスマスカード、ギフトを毎年楽しみに待ってくださっています。

11月8日(土) 成瀬中学校学芸発表会ユニセフバザー

佐賀市メートプラザ



成瀬中学校第12回学芸発表会会場において昼の休憩時間を利用したユニセフ支援バザー・ユニセフグッズの頒布・パネル展が開かれました。この取組みは毎年、先輩の皆さまから引き継がれています。

各学年からのユニセフ係りの生徒さんが売り子担当、会計担当と仕事を分担して多くのお客様に協力の呼びかけをしていました。ユニセフグッズの頒布額は、11,130円でした。

11月9日(日) かたりべの里「本庄祭り」グッズ頒布&キッズバザー 佐賀市立本庄小学校

例年、本庄校区の皆様のご理解ご支援をいただき、ユニセフグッズの頒布&キッズバザーを開催させていただいています。各地区子ども会のおみこしパレード、城西中学校の吹奏楽演奏、本庄小学校のマーチング演奏の後、地元各団体のバザーが始まりました。

ユニセフのキッズバザーコーナーには、10円玉を握りしめた元気な子ども達がたくさん集まってくれました。飛び入りでバザーのお手伝いをしてくださったユニセフ会員さんがいらっしゃって、心強い連帯感を感じました。ミニバザーへのご協力は6,744円となり、全額ユニセフ募金とさせていただきます。

11月10日(月) 出前授業

柳川市立矢ヶ部小学校

テーマ 低学年「水がないとどうしてこまるの？」

高学年「限りある資源『水』について考えよう」



矢ヶ部小学校では毎年「ユニセフ人権学習」に取り組んでいます。今年度は、安全な水を手に入れることができない子どもたちの様子を知り、子どもの人権が守られていないことについて考えました。

学習の終わりに17,700円のユニセフ募金の贈呈がありました。これは、11月2日の矢ヶ部校区「ふれあい広場2008」で、6年生の皆さんが自分たちで育てたもち米でお餅をついたり、もち米を地域の方に買っていただいたりして募金活動に取り組み、地域の皆さまからご協力いただいたものです。



学習を終えて

海水はたくさんあるけど、のみ水にできる水はほんのちょっぴりしかないことが分かった。世界にはきれいな水を飲めない子どもたちがたくさんいて、どろ水のような水を飲んですぐに病気になり死んでいるのでびっくりした。だから、これからぼくが始めることは、水のむだ使いをしないようにしようということです。

ネパールの子子どもたちが使っている水がめで水を運んだ。ちょっとしか歩かなかったけどとっても重くて手に形がつくくらいだった。あんなに重いものを持って家族のために水を運んでいるネパールの子子どもたちはすごいなあと思った。

色々なものを食べたり飲んだりできるのは当たり前だと思っていたけど、そうではないということが分かった。今度から感謝して食べて、食べ残しをしないようにしようと思った。

水くみのために学校に行く時間がない子どもたちがいるなんてびっくりした。これからもユニセフをがんばる。



11月15日(土)～16日(日)

佐賀大学学園祭パネル展&グッズ頒布

佐賀大学本庄キャンパス

第11回佐賀大学学園祭 繫・つながり において、「学ばんばヒューマンライツ」の学生さんとユニセフサポーターの学生さんは「～世界の子子どもたちは、今～ ユニセフパネル展&グッズ頒布」に取組みました。

文化教育学部の学生さんたちは、子どもの権利に関して、世界の子子どもたちのおかれている現状（乳幼児期のケア・ストリートチルドレン・子ども兵士）について研究したことを発表しました。学生さんたちのすばらしい研究発表に会場の市民の皆様も熱心に聞き入っておられました。



11月20日(木) 出前授業 小城市立三日月小学校

テーマ 1～6年 「いのちの水」

天山に雪が積もる寒い日でしたが、全校の皆さんは体育館に集まり「じんけん集会：テーマ～いのち～」の学習をしました。

生きるためにはなぜ水が必要かをクイズで考えたり、アジ

アやアフリカの子子どもたちがどのようにして水を求めているのかを視聴したりして、「いのちと水」について考えました。また、ネパールで使われている水がめを使っての水運び体験もしました。

学習を終えて

思っていたよりも水運びは重くてきつかったです。これを1日に何回も、毎日しなくてはならないのは大変だろうなと思いました。

飲み水にできる淡水は少ししかないことが分かったので、ぼくはこれから水を大切にしようと思いました。

Let's unicef

手塚 うた子さん



神崎市子どもの居場所教室「ドリームパーク」コーディネーター
神崎市放課後子ども教室「ドリームパーク」では、隔週の水曜日、市内各小学校を会場に、様々な体験活動が行われています。

今年度は日本ユニセフ協会佐賀県支部より講師をお迎えし、市内4校で「水から世界を考えよう」の出前講座を行いました。「ユニセフってなあに?」「ノートに書いてあるの見たことあるよ」と、ユニセフと子ども

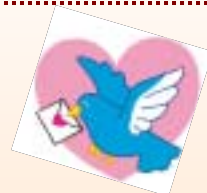
たちの出会いは様々でした。

パソコンから映し出される、水に恵まれない地域の人々の暮らしに「わぁ、泥水をくんでる。」と驚きの声があがりました。大好きな学校に行ったり遊んだりすることよりも、家族の一日分の水を確保することの方が優先される、初めて見る国の子どもたち。そして実際に水がめを運んでみて、その重さや距離に、大変な仕事なのだということを実感したようでした。

恵まれた環境の中で生活している子どもたちにとって、いかに水が大切か、自分には何ができるかに気づき、またユニセフを通して「世界の中の自分」を意識した始めの一歩だったのではないのでしょうか。



ご支援・ご協力ありがとうございました



武雄青陵高校様 ローソン佐大前店様 龍谷高校様 みのり歯科診療所様 (株)モトシマ様
大和中学校様 日本バプテスト連盟佐賀教会様 佐賀清和中学校様 本庄小学校様
多久北部小学校様 佐賀大学ムツゴロウ祭学術担当様 矢ヶ部小学校様 昭栄中学校2年生様
昭栄中学校生徒会様 成瀬中学校様 うーたん通りみどりのテラス清水様
雇用能力開発機構佐賀センター様 (株)小野商店様 大塚製薬佐賀工場様 日新公民館様
住友生命佐賀支社様 佐賀大学学生課様 本庄公民館様 三日月小学校様 さが市民活動プラザ様
佐賀大学学ばんばヒューマンライツ&ユニセフサポーター様 佐賀市立図書館様
佐賀市国際交流協会様 (2008年9月24日~2008年11月20日)

いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。個人の皆様からもたくさんのご支援をいただいておりますが、平成17年4月1日からの「個人情報保護に関する法律」施行に伴い個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。